

もっと自然と友達になりたいね！

潮騒と命山コース

浅羽南地区には、自然の動植物が育つやさしい地域環境を作り、それを次世代へ残したいという思いから、有志の皆さんが「里浜の会」を結成し、はまぼうふ、はまえんどう、または、はまひるがおの育成・保護や海浜のゴミ拾いなど、海岸保全のために、様々な活動を行っています。



命山をめぐる歴史

延宝8年(1680)8月6日(新暦では9月28日)に東海道筋を襲った台風は、安政3年(1856)の台風と並んで、江戸時代の二大台風と言われるほど多くの被害をもたらした。

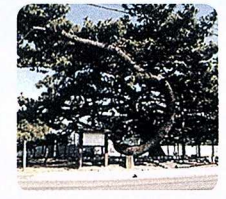
この時、横須賀から浅羽にかけての海岸地帯では高波と高潮が発生し、横須賀城の櫓が流されたのをはじめ、家屋6千戸が流出、300人程が溺死したという。

南を遠州灘、東を弁財天川、北を入江という具合に三方を水に囲まれた大野・中新田の被害はひどく、全ての家が流され、水間を漂う家は天井まで潮が満ち、人々は屋根を破って軒しがみついたまま、笠原や江の端まで流され、堤にぶち当たって崩壊し、老人や子供が沈んでいった。

家財道具は柴地区(現:芝地区)まで流れ着き完全に水が引くまで一月以上もかかった。多くの命を失った大野・中新田では、残された村人が総出で避難所の塚を築き、その後の大潮にもこの塚に登って助かった。命を救う山ということで「命山」と呼ぶようになった。

ちょっと見聞

よって！ポイント



初代 亀の松



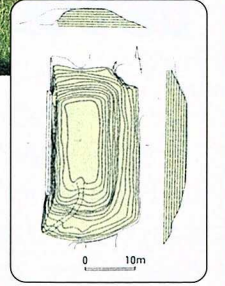
2代目

遠州灘一带には昔から海亀が産卵に訪れ、途中で命を落とす場合が多かったことから供養塚を作ったり、亀に関する伝承が語り継がれたりした。この松は、今では海岸線から500mも内陸に入ったところにあるが、昔は波打ち際だった。



大野命山

県指定文化財の史跡で、平面形が小判型をしている。規模は縦38m、幅24m、高さ4mだが、北側と西側が削られて一回り小さくなった。



DATA コース/約6.7km 約82分 消費カロリー/約348kcal

